

## 平成 25 年度 第 3 回 静岡市市民活動促進協議会 会議概要

- 1 開催日時 平成 25 年 12 月 16 日（月） 午前 9 時 30 分から午後 11 時 50 分
- 2 開催場所 番町市民活動センター 大会議室
- 3 出席者 <出席委員>大西会長 山本副会長 井野委員 大棟委員 黒田委員  
津富委員 原田委員 増田委員  
<欠席委員>遠藤委員 小林委員 日詰委員  
<事務局> 海野市民生活部長 杉山男女参画・市民協働推進課長  
山本統括主幹 池田主査 望月主査 平野主事

4 傍聴者 なし

### 5 議事

- (1) 第 2 回協議会結果について
- (2) 協議会開催スケジュールの変更について
- (3) 協働パイロット事業の見直しについて
- (4) 「NPO（市民活動団体）の組織強化」について（ワークショップの開催）
- (5) 第 4 回協議会の議題について

### 6 会議内容要約

- (1) 開会 海野市民生活部長 挨拶
- (2) 議事  
大西会長挨拶

#### ① 第 2 回協議会協議結果について

事務局 「協働に対する意識改革を行うには」についてワークショップにおいて協議した結果等を説明

原田委員 ワークショップ結果を取りまとめたものに貼られた各委員からの意見が書かれた付箋に網掛けの有るものと無いものがあるが、その違いは何ですか。

事務局 網掛けがある付箋には、市役所職員の課題や問題点。網掛けが無い付箋には市民側の課題や問題点を書き整理を行っています。

山本副会長 事務局で取りまとめたワークショップ結果（４枚目）のキーワードは、どういった意味になりますか。

事務局 例えば、『コミュニケーション』は、「市役所と市民活動団体、もしくは市民の方々との意見の交換、やり取りが上手くいっていないのではないか。」というようなご意見を基に広い意味でコミュニケーションを抽出しています。

また、『広報』につきましては、市役所の広報に限らず、市民活動団体からの広報、番町市民活動センター等の中間支援組織における広報についても不足が感じられるといったご意見を基に抽出しています。

山本副会長 『補完』というキーワードの意味を説明してください。

事務局 ここで言う『補完』には、それぞれが足りないものを補い合う協働の根本的な部分の意味を代表した表現として使っています。

## ② 協議会開催スケジュールの変更について

事務局 今後の協議スケジュールの改定案を説明

山本副会長 今日のワークショップの議題を「NPOの組織力強化」ということで、特に『お金』に絞って検討を行う理由を教えてください。

事務局 今回のワークショップでは、市民活動団体に関する「外的要因」とか「内部的要因」について詳しくご議論していただく予定です。

例えば、外的要因は、法律の制度、市の助成、企業との関係、銀行の融資等について、内部的要因は、法務、財務、経理、人事、広報、情報発信といった組織運営についての問題点を議論していただく予定となっております。

その中でも市民活動団体の組織運営において大切な要素である『お金』を検討材料の代表例としてあげています。

津富委員 「市民」「NPO」「企業」というくくりがありますが、市民活動団体はNPO法人だけではなく一般社団等もありますが、NPOを強調する意味は何ですか。

事務局 NPOという表現は、代表的な例として、市民活動団体の主なとして使っています。

津富委員 自治会等の地縁団体は含まれますか。

事務局 今回の議論から地縁団体は外してください。

### ③ 協働パイロット事業の見直しについて

事務局 本年3月に前期の本協議会から提言された「理想とする協働提案制度」及び、8月に行われた「市民評価会議」結果を受けての協働パイロット事業の見直しについて説明。

井野委員 「予算枠を柔軟にする」ということと「25万の1事業の予算枠を無くす」と言うことの意味は、100万円の予算額を増額する意味ですか。

事務局 現時点で100万円の予算の総額を増額するという事は、考えていません。

ただ、多くの事業提案をいただけるよう、1事業あたり25万円の枠を外すことは予定しています。これが「予算枠を柔軟にする」という意味となります。

井野委員 提案ですが、他の自治体で成功した事例に手を加えれば、静岡市でも上手くいく協働事業があるのではないのでしょうか。

そう言ったNPO等の成功事例を紹介する様な事例集をお作りになったらいかがでしょうか。

事務局 他の政令指定都市でも協働パイロット事業に類似した事業を行っているところもありますので、それらの状況を確認し、成功事例を示す研修会等をNPO向けに開催する予定はあるため、その中で情報として提供出来るように考えて行きたいと思えます。

津富委員 市から課題を示す「課題テーマ」と自由に企画できる「自由テーマ」のこれまでの採択の実績を教えてください。

事務局 昨年度、平成24年度の実績として、課題テーマは、「地域猫活動」として2事業、自由テーマとして2事業、計4事業採用しています。

津富委員 特に自由テーマで、協働パイロット事業に応募する際、いきなり審査になるのではなく、事前に色々な部署と話が出来て、NPOが「どの部署と協働するべきか。」を知ることができる、そういうステップも必要なのではないかと思います。

事務局 事前の説明会を行い、その後、応募された提案について、当課において、事業担当課とNPOを繋げる作業は行っています。そういった作業が分りやすく伝わるよう、今後もPRをしていきたいと思っています。

山本副会長 提案ですが、市民活動をやっている側で、既に協働の実績のある方をコーディネーターして取り上げていただけないでしょうか。

市側と挑戦者の方の仲介者として活躍していただけたら、協働が一過性で終わらず、多くの質の高い協働事例を作って行けるのではないかと思います。

事務局 今後、検討させていただきます。

大西会長 この協議会としても、協働のコーディネーターを設置するための提案を基本計画に盛り込んだりできたら良いと思っています。

事務局 協働により得られた効果を金銭的に検証して、行政内部に浸透させていき、各課の事業を協働によるものに転換していくことも検討しています。

井野委員 協働パイロット事業を継続するため、100万円の予算確保については工夫して取り組んでいていただきたい。

大棟委員 NPO側から言うと、市民評価会議での評価結果が「再構築」というのが少し納得できない所があります。これは事業自体の広報の問題もあるのではないかと思います。市民にもわかりやすい広報や仕組みをご検討いただきたい。

その結果として事業の質も向上して、提案も増えるということに繋がっていくのではと思います。

25万円の予算枠にとらわれないと言う改善は、非常に評価できると考えています。

事務局 市民評価会議におきましては、我々の努力不足の所をご指摘頂いた

と反省しております。今後は積極的に職員の意識の改革に努めて行きたいと考えております。

④「NPO（市民活動団体）の組織強化」について  
（ワークショップの開催）

⑤ 第4回協議会の議題について

大西会長            次回の協議会の議題について、皆様からご意見を申し上げます。  
「是非、この議題が重要なので、次回の協議会のテーマにしたい。」  
というご提案等ありましたらよろしく申し上げます。

井野委員            自分の考え方を知ってもらう機会、アイデアを募集して、それを  
知らせていくこと。1人のアイデアをどういうふうに機会を作って  
皆さんに広報したら「NPOの活動の糧」になるのかが重要であると思  
う。

山本副会長            「市民活動」の考え方が伝わらない、想いを言語化しない傾向があ  
る。仲間で想いを共有できないことがある。  
その想いを形にすることが行政の役割。その形のあるものをもっと  
引き上げることが重要。ターゲットを1つに絞るのではなく、力点を  
どこに置くのかを皆さんの経験から議論してみてもは。

大棟委員            想いをミッションとして活動している団体も多い。NPOへの参加  
を促進するために、どこにどういう団体があるか、市民に知ってもら  
うための広報の議論も必要では。

津富委員            牧之原市では自治会に限らず、地区毎に市民活動を行える場を行政  
が用意している。  
市民が、自分事として地域などを考えられるような「場作り」が必  
要では。  
様々なNPO活動を紹介していくことや市民活動をやろうと思っ  
たときに受け止められる「機会作り」について話し合えたら良いので  
は。

大西会長            これまでのご意見をまとめると、まずは、市民活動のすそ野を広げ  
たいということ。これは「仕組」の部分と言えます。「意識」の部分、  
これは「理念」の部分とも言えます。

現在の市民活動促進基本計画にも3つの「理念」が書かれており、その「理念」を見直していく、より豊かにしていく議論も必要ではないこととなります。

これまでの計画の「仕組」と「理念」の部分を修正していく作業も必要であると思っています。

井野委員 市は「まちみがきトーク」などを行って、市民の意見を聞こうとはしているが、自分の意見が通らないと市政に対する参加意欲も減ってしまうこともあるので、市民の声を吸い上げるシステムを整備していくべきでは。

山本副会長 これまでの枠組みに捉われない（片手間でも参加できる等）市民活動への関わり方や参加のアクションをどう起こしていったら良いか、それにより市民活動のすそ野を広げていく方法について考えていきたい。

大西会長 次回協議会での議題は、今まである市民活動に「分りやすさ」や「楽しさ」を加え、そのすそ野を広げるための『理念』についてと、そのための『仕組』について協働提案制度を含め、どうやって作っていくかの2点でよいでしょうか。

次回協議会での議題：

『市民活動を広げるための①理念の検討、②仕組みづくり』

各委員 <了承>

事務局 事務連絡

- ・市民活動センターと連携し「市民活動に関する実態調査」を実施し、その結果を以降の市民活動促進協議会に報告する旨を報告。
- ・次回（第4回）市民活動促進協議会は、平成26年1月29日（水）19:00からの開催を確認
- ・次々回（第5回）市民活動促進協議会は、平成26年3月19日（水）9:00からの開催を確認

（以上、会議終了。）